

高等学校芸術科（美術）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点	
①	1	(a) 岡倉天心	岡倉覚三 もよい。	各3×3	
		(b) アイスナー	エリオット・アイスナー, エリオット・W・アイスナー もよい。		
		(c) 自由画			
	2	(ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスの原理と動力や風力を利用して動く彫刻 ・紙や薄いプラスチックなどの軽い素材を針金や糸などを使って天井からつるし、バランスをとって動く飾りなどの造形物 ・針金を中心に、バランスを取りながら複雑な動きをするしくみの造形物 	1つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×3
		(イ)	<ul style="list-style-type: none"> ・型紙の穴を通してインクを刷り出す版画の方法 ・絵や図形などのデッサンを切りデッサンどおりに穴をあけ、その上からインクを摺り込む版形式 ・穴にインクを通して形体を写し出すもので、シルクスクリーン等が代表的 		
		(ウ)	<ul style="list-style-type: none"> ・麻布を漆で張り固めたり、漆と木粉を練り合わせたものを盛り上げたりして造形する彫塑の技法 ・型に麻布を糊漆にして張り込み、型から外す方法 ・木材にてある程度成形し、漆下地で盛りあげ造形する方法 ・粘土の塑造を芯にして糊漆で麻布を張り重ねてモデリングし、漆が硬化したら中の塑造を解体して抜き取る技法 		4 5
	3	(a)	(カ)		各3×3
		(b)	(オ)		
		(c)	(イ)		
	4	(1)	紅白梅図	紅白梅図屏風 もよい。	3
(2)		流派	琳派	3	
		作風	<ul style="list-style-type: none"> ・大胆な構図 ・華麗な色彩 ・動きのある画面 ・装飾的な表現 ・単純化による表現 	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各3×2

高等学校芸術科（美術）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
2	1 制作意図 次の点を踏まえて、制作意図を書いていること。 ・公園で、地域の人等が使用するという目的、座るためのものといった機能などを考えた上で、形や色彩、扱う材料の特性を生かして発想や構想がされている。 ・多くの人が共通して感じるベンチとしての使いやすさや機能と美しさなどとの調和が総合的に考えられている。 ・デザインに心地よい美しさがあり、公園での活動を楽しみ、豊かにするものである。 ・ベンチのデザインに遊び心などを取り入れるなど、思いがけない楽しさが含まれている。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。 制作意図と作品が対応しているものだけを正答とする。	3 1
	2 作品 次の点を踏まえて、作品を描いていること。 ・ベンチのデザインが、使う人や場所にふさわしい意味のあるデザインになっていること。		4 3
2	・作品の特徴をとらえ、作者の意図、表現テーマやコンセプト、表現の工夫などを読み取り、それらがどのように生かされているかを考えさせること。 ・言葉で考えて整理させることにより、美しさの要素を明確にさせること。 ・新たな視点で作品をとらえ直したり、他の作品と比較して相違や共通性に気付いたりするなど、生徒が関心をもって具体的によさや美しさを感じ取れるようにすること。 ・美しさと機能性との調和、社会や生活、自分との関わりの中で作品やその役割などをとらえるとともに、表現の意図と創造的な工夫について考えさせること。	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。	各6×2
3	1 ・鏡や写真で自分の姿をよく見て、どんな表情やポーズ、色づかいが今の自分に合うのか探させる。 ・思い出の品などの資料となるものを集め、表現のための構想に活用させる。 ・心の中を言葉やアイデアスケッチや色、図などに表し、自分の気持ちや考えを整理させる。 ・参考となる美術作品などを鑑賞させ、作者の作品に込めた様々な思いや主題、意図と工夫などを深く考えさせ、自己の内面を見つめ直し、「自分らしさ」を捉えるきっかけにさせる。	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。	各8×3
	2 ・水の量を加減して、明るい所を塗り残しながら暗い部分をぬっていく。 ・白っぽくしたい場合は水を多く混ぜる。 ・黒のかわりに青紫や青緑系統の色を使ってみる。 ・重色する場合は下の色が乾いてからぬる。 ・にじみ・ぼかしの技法を用いる。		各6×2
4	1 造形の要素に着目し、その働きを捉えることができるように、形や色彩、材料や光などの性質や、それらが人の感情にもたらす様々な効果などについて理解すること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。	8
	2 対象を具体物に見立てたり心情などと関連付けたりする。		8
	3 (a) 作風 (b) 様式		各6×2
5	次の点に留意して描いていること。 ○ 形を正確にとらえて表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって立体感を表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって質感を表現していること。 ○ 画面にバランスよく構成していること。		各12×4 4 8